

令和4年度 活動紹介票

団体名	一般社団法人SAVE IWATE	代表者 職・氏名	理事長 寺井良夫
住所	岩手県盛岡市中野1-10-31	電話	019-601-6482

事業内容

助成区分		復興枠
事業名称		ぞうきん縫いを基軸とした被災者の生活と心のサポート及び支援者との絆づくり
主な活動地域		盛岡市、宮古市、釜石市
取組概要	目的	被災者の縫ったぞうきんを買い取って販売するとともに、集う場「紡ぎサロン」を定期的に開催することで、日々の生活と心をサポートし孤立化を防ぐ。また、全国の方々に向けて購入だけでなく材料の確保や販売拡大への協力も呼びかけ、そのつながりを活用してこの事業や被災地・被災者、復興について積極的に発信する。それにより被災者と支援者の結びつきを強めるとともに、双方の復興への関心を高めることにつなげる。 さらに、これまでの活動の効果をより多くの被災者・支援者に波及させるためのイベントを行う。
	内容	(1) 被災者による手縫いぞうきんの製作・販売 ・製作参加被災者数 30名(盛岡市在住15名/宮古市在住7名/釜石市在住8名) ・製作枚数 5,472枚 (2) 製品を仕上げ、参加者同士の交流を図る「紡ぎサロン」を県内4箇所で開催 ・開催場所 もりおか復興支援センター／災害公営住宅南青山アパート(盛岡市) 福祉作業所アトリエSUN(宮古市)／天神復興住宅(釜石市) ・開催回数 計44回 / 参加被災者数 のべ261名 (3) 広報紙「紡ぎ組だより」の発行 ・発行回数 2回(10月・2月) / 発行部数 計1,000部 (4)「わたしの復興ぞうきん」イベント開催 被災の有無を問わず全国から手縫いぞうきんとメッセージを募集し、展示会を行った。 ・会期 令和5年3月4日～12日(9日間) ・会場 もりおか復興支援センター/復興応援の店りあすぱーく ・展示作品数 269枚 ・応募者居住地 県内167名／県外102名(東京、神奈川、大阪等9都府県) ・来場者数 計551名(うち県外者は約1割)
	成果 (将来計画)	○日々の生活の中にぞうきん縫いという手仕事があること、そしてそれを持ち寄り、仲間と作業・交流する場としてのサロンに定期的に通うことが、参加者の心と体の健康維持につながった。特に盛岡市在住の参加者は半数が80・90代で、日頃の仲間同士の見守り合いやもりおか復興支援センターとの連携によって、孤立化防止・病気等のトラブルの早期対応ができたことは、非常に大きな役割を果たせたと考えている。また、遠方の支援者との交流が行えたことも意義深い。 ○「紡ぎ組だより」では、紡ぎサロンの様子や、参加被災者の震災体験などを通し風化防止の情報発信を行った他、支援者に対しアンケートを実施して絆を深めることができた。 ○「わたしの復興ぞうきん展」では、様々な年齢・居住地・震災体験の方々に参加してもらえた。ぞうきん作品とメッセージを通じ、風化が進む今、自身の震災の記憶を呼び覚ましてもらったり、復興や被災者への想いを新たにしてもらうことにつながった。首都圏や被災地での開催を望む声も寄せられ、次年度の活動計画に活かしたい。 (展示メッセージより) 「復興雑巾を縫っていると息子が急に『あの時は大変だったよな』と思い出し、『皆の顔がそろった時、互いに泣いて言葉にならなかった事』他、雑巾を通して、今こうしていられる事のありがたさを強く感じることができます。」「人と人、岩手と全国をつなぐ復興ぞうきん。震災後に結ばれたご縁を大切に、東日本大震災を知らない世代にも記憶を語り継いでいこうと思います。」 (来場者アンケートより) 「震災からどんどん時間は経っていきますが、みなさんの想いはいろいろなカタチで伝わっていくんだと展示を見て感じました。」「一枚一枚にあたたかい気持ちを感じられ、目頭が熱くなる思いです。つらい経験だったけれども、みんな前を向いて歩いていると心強く思えました。」
事業費(千円)		2,045千円(うち補助金1,493千円)



南青山アパートでのサロンの様子 もりおか復興支援センターサロン参加者 わたしの復興ぞうきん展/開催の様子 /参加者と作品